0LTGG

1. 人事異動）

“ベイリーギフォード社の人事異動”

別紙

1. パフォーマンス）

“DC月報”

今四半期；ファンド2.19％、参考指数11.71％、9.51％劣後

要因分析は行っていませんが、3月単月の下落が原因で、

組み入れ上位のテンセント（-8％）、メイチュン（-20％）、ピンデュオデュオ（-30％）、アリババ（-7％）といった中国の株式の下落が大きかったことが主な要因。

**投資哲学**：以前お話しさせていただきましたが、彼らの投資哲学は純粋に銘柄本位のボトムアップアプローチによるグローバル運用であり、ベンチマークに基づいて若干のリスクをとっても意味がないと考えています。

さらに限りない利益を享受するためには潜在的な損失にあえて目をつむる必要もあります。

（３．主な投資行動）

“組み入れ全銘柄のご紹介（2020年12月末現在）”

1－3月に全銘柄売却したものはなし。

新規に１．韓国の企業クーパン、２．中国の企業ビリビリ、３．米国の会社ザトレードデスク、４．ドイツの医薬品メーカーバイオンテックを購入、一方4銘柄の買付資金捻出のためテスラ株を売却、テスラは12月末の組み入れ比率9.5％でしたが、3月末は5.5％。

新規買付銘柄の概要をお話しさせていただきます。

1. クーパン

・2010年創業、本年3月NY証券取引上に上場

・韓国最大級のEコマース（競合は11番街、G-MARKET）、ちなみに韓国のEコマースの売上は約10兆円で、日本を抜いて世界4位（1位中国90兆円、2位米国80兆円、3位英国１４兆円）

・特徴は“ロケット配送”を可能とする独自の配送網を構築していること。“ロケット配送”とは、当日夜中の12時までに注文すれば原則翌日配送、注文された品の99.6％は翌日配送されている。この点が同業他社と比較し圧倒優位な点。

・売り上げは一昨年前年比50％増、昨年は前年比100％増

・2020年12月期：売上1兆3000億円、当期利益マイナス500億円。時価６兆円

1. ビリビリ

・2009年創業、2018年3月上場

・中国の若者向けにオンラインエンターテイメントを提供する企業。もともとは日本のアニメを輸入していたが現在は、アニメ、ビデオ、ゲームを提供。アクティブユーザーは2億人近く、サイトの滞在時間は平均87分、これは結構長いらしい。

・アリババ、テンセント、ソニーが出資

・売上2000億円（昨年の2倍）、当期利益は500億円の赤字。時価４兆円。

1. ザトレードデスク

・2009年創業、2016年ナスダック上場

・米国を拠点とするオンライン広告プラットフォーム企業。グーグル、フェイスブックなどと異なり、オープンインターネットによる広告事業を営んでいます。グーグル、フェイスブックは当然ですが自社のサイトの中で広告主の広告を展開しますが、トレードデスクのビジネスモデルは、広告主に対して、効率の良い広告媒体を選択するお手伝いをしています。例えば、車を販売しているディーラーがインターネット広告を打ち出したいと考えた際、トレードデスクは様々な広告媒体から費用が低く、効果が最適となる広告媒体をオートマチックに選定し、その広告媒体を訪れたユーザーに広告を提供します。

特に最近の広告媒体で伸びているのがコネクテッドテレビ。ゲーム、ビデオなどテレビにつないでエンターテイメントを楽しむ媒体ですが、そこでの広告宣伝業務でトレードデスクは優位性を発揮している。

・売り上げ1000億円、当期利益300億円弱。過去5年間売上は毎年40％増。時価2.5兆円

1. バイオンテック

・2008年設立、2019年上場

・ドイツの医療品メーカー、もともとはがん治療薬の開発。直近ではファイザーとともに、コロナワクチンを開発、現在中国の医薬品メーカーとコロナワクチンを生産するため合弁企業を設立。

・売り上げ600億円、当期利益20億円。時価５兆円。